
個室

VISIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

個室

【コード】

N3300Z

【作者名】

VISIA

【あらすじ】

仕事中、腹が痛くなった男の話

(前書き)

食事中の方はご遠慮ください。

土曜日の夜2時を過ぎても、その小さい会社の窓の明かりは消えることはなかった。

男が残業で1人会社に残って夜遅くまで仕事をしていると、急に腹が痛くなった。

男は急いでトイレの個室へ駆け込むと、ズボンのベルトを不器用にカチャカチャ外してパンツ共々ズボンを下ろし和式便器に跨がった。

その時、

ぎ
い
い
い
い

と、トイレの入口ドアが開いた。

「会社には他に誰もいないはずだが…」

足音がパタパタと近づいてきて、隣の個室へ入っていく。

暫くして、

ぶりぶりぶりぶりっ

と、爆音が聞こえてきた。

男は、その音に苛ついた。そして、爆音に対抗して自らも激しい排便を始めた。

隣から来る臭いに侵食されてたまるか、とばかりに獣の縄張り争いのような原始的な戦いが続いていく。

やがて、男が先に腹の中のものを出し尽くしてしまった。隣人はまだ爆音を続けている。

「いやあ、お見事ですなあ。」

と、男が言葉を漏らすと、隣の爆音がピタリと止まった。

そして、

カランカラカラン

と、トイレットペーパーの芯が床を転がる音がした。

男は隣人の異変を感じ、慎重に立ち上がりながら、足元の予備のロールを仕切りの上から差し出してみた。

すると、隣人の手が見えて、差し出したロールを掴んで強引に奪っていった。

男はその時、一瞬だけ隣人の手を見ることができた。その赤いマニキュアの細い指は、まるで女性のようだった。

入る所を間違えたと思った男は、慌てて事後処理を済ますと、トイレを飛び出していった。

でも、

「一体誰だろう?」

一応、社員全員のタイムカードを確認してみるが、皆すでに帰宅しているようだった。

男は、トイレへ向かった。まだトイレの明かりはついていた。

やはり先程、男は間違えて女子トイレに入ってしまったらしかった。

「すみません、もう帰りますので…」

返事は無かった。

「大丈夫ですか？中に入りますよ。」

男がトイレの入口ドアを開けて中を覗くと、個室の1つが使用中になっていた。

その個室のドアを男はノックした。

「大丈夫ですか？」

改めて男が聞いたとき、

ガチャ

と、個室のロックが外れる音がして、ドアが内側へゆっくりと開いていった。

誰もいなかった。

和式トイレの中に、男が差し出したロールが半分ほど使用された状態で落ちていた。

男は何も見なかったこととしてトイレの電気を消し、足早に帰宅した。

月曜日、男は会社を私用で休んだ。

会社では、男が使用した女子トイレが封鎖されていた。

トイレ個室の奥の壁が爆破されたように崩壊しており、その隣の個室では、女性の衣服でトイレが詰まり大変な事になっていた。

全て、休んだ男のせいに行われていた。

(後書き)

その日から男の家に、裸の女性の幽霊が現れるようになる。

彼女は毎晩決まった時間にトイレに駆け込み爆音をたてていた。

男は寝不足になり、トイレの防音工事をしざるを得なかった。

だが、彼女は次第にトイレのドアを閉めなくなり、更に自動ドアの追加工事が必要となった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3300z/>

個室

2011年12月11日13時48分発行